

くじら企画 第二回公演

三人虜

作・演出 大竹野正典

登場人物

スナメリ

ナガス

ゴンドウ

刑務所の話、だそうである。

ところが生憎、私は刑務所の事など何も知らないのである。

幾つかの映画や本で、見たり読んだりしたくらいのもので、記憶力の悪い私には、その内容は愚か牢屋の中に何が有るのかも判然としない。

しかし、刑務所の話であるからには、それなりらしい事は書かねばなるまい。だから書くのだけれども、そういう訳だからこれは架空の刑務所の話である。

まず、檻が有る。

檻の中は、六畳程度の小部屋になっており、打ちっぱなしのコンクリートの壁が寒々しいだろう。³

檻の背後の壁、高さ2M程度の所に、小さな小窓があり、そこも檻になっている。昼なのか夜なのか判然としないが、そこから薄らと外の光が射し込んでいる。

三組程度の煎餅布団が、片隅に積んである。

そしてその反対の隅に洋式のトイレがポツンとある。

それだけ。

ゴンドウが、一人で檻の中に立っている。彼は無銭飲食の罰としてここに居る訳だ。多分長くても二ヶ月程度でこの罰は終わるだろう。しかし、檻の中での二ヶ月は、きつと長い。

ゴンドウ

看守さん ねえ 看守さん —— そこに居るのは判ってるんです ちよつとこつちに来てくれませんか 困ってるんです私 —— ねえ看守さん 居るんでしょう そこに？ 少しくらい顔だしてくれてもいいじゃありませんか 緊急事態なんです ねえ 看守さん 緊急事態なんですつてば！ —— 居ないんですかそこに？ 居ないなら居ないつて云ってくれなきゃ駄目じゃないですか 私困ってるんですよ トイレが詰ってるんです 流れないんですよ 今さっき流したら逆流したんです 危うく便器から溢れ出す所だったんです ねえ聞こえてますか看守さん 聞いてたらお願いです 助けてください 私 今朝から下り腹でしてね もうすぐ次の波がやってくるんです 今私こらえてます ええこらえてますとも 今はね —— しかし もう三度来たんです 波がです 堪えましたよ私 しかし次は土用波の予感があるんです お願いです看守さん 私の防波堤は今にも決壊寸前なんです 看守さん 答えてください看守さん 私今しも 看守さん 4ああ っ 看守さん（絶叫） —— クックク 堪えました 四度目も堪えました でも 次はきつと駄目です 防波堤にヒビが入りました 少しパンツが暖かいです ねえ看守さん そこで笑いを堪えてますね 馬鹿な無銭飲食者の醜態をそこで高見の見物なさるおつもりですか？ 鬼っ！ —— いや 今のは撤回します 済みませんでした つい頭に血が昇ってしまいました 怒らないでください

もし良ければあの —— 名前は良く知らないんですがあの —— カポカポ —— ほらトイレが詰ったときにポッシンポッシンしてるやつがあるでしょう？ あれ貸して頂ければ有り難いんですが —— あいつで二三度突っついてやればきつと直ると思うんです 看守さん？ 聞いてます？ 刑務所になつてあるでしょうカポカポの一つや二つ？ —— それからチリ紙の束があればそれも 貰った分はもう使っちゃったんですよ あれつて配給の枚数が決まってるんですか？

私の分もう無くなっちゃったんです　ですから出来ればチリ紙も一束　——　看守さん？看守さん聞いてます？まさか居眠りしてるんじゃないや無いでしょうね？　あ来る来る　第五の土用波　私の防波堤はもう限界です　来る　——　来た来た来た来た　看守さん　津波です　ビッグウェンズデイです　看守さん　カポカポ　——　カポカポください　そうでなければ私はもう　——　看守さん　——　ああ

ゴンドウ、津波に飲まれてゆく。

暗転

すぐに明転。

同じ場所に、ゴンドウとナガスが立っている。

5

ナガス　で？

ゴンドウ　え？

ナガス　それからどうなったんです？

ゴンドウ　聞きたいんですか　その先？

ナガス　いや聞きたいって聞かれたら　答えに詰ってしまいますが

ゴンドウ　私も云たくありません

ナガス　云わずもがなの結末ですね　悲惨だなあ

ゴンドウ　悲惨というより惨劇でしたね

ナガス

ゴンドウ

ナガス

ゴンドウ

ナガス

ゴンドウ

ナガス

ゴンドウ

ナガス

ゴンドウ

ナガス

ゴンドウ

ナガス

ゴンドウ

でも出来うるならば そんな話は最初っから聞きたくなかったですね
こんな所に二週間以上も居れば自ずと話題だつて下卑てくるもんです

私 もう水飲めなくなりました

水が？なんで？

なんでって そんな事がよく云えますね ゴンドウさん ここじゃ御飯のときのお茶以外 水道と
呼べるものはそのトイレしかないんですよ

そりやまあそうですけど ——

私もケチな事やった身ですから それ相応の覚悟を決めて刑務所に来ましたけれどね まさかトイ
レの水で歯を磨くとは思ひもありませんでした ねえゴンドウさん 刑務所って云うのは犯罪者を
更正させる為の施設ですよ だのにどうしてこういう —— 人の心をさらに歪めてしまつよう
な設備しかないんです (下を向いた)

ナガスさん 泣いているんですか？

泣いちゃいけませんか！ 私 小さい頃から親にも近所の人にも先生にもよく殴られました
トイレの水で歯を磨かされるなんて生まれて初めてです しかしそれでも目をつむって鼻をつまん
で堪えていたのに ゴンドウさんのそんな話聞かされたらもう —— (吐きそうになる)

あんがいデリケートですね ナガスさんて

ゴンドウさん もしかしたらそうやって新人りの私をいじめてるんじゃないですか？

いじめる？私がナガスさんを？まさか

じゃあきつと デリカシーってものが全然ないんです

嫌だなあナガスさんは 私は先だつてそういう事を経験したって話しただけじゃありませんか 云
わば教訓っていうやつです

ナガス 今の話の何処が教訓なんです！

ゴンドウ ここでは いざと云うとき看守さんはあてにならないって云う ——

ナガス (大声で) 看守さあん ゴンドウさんが看守さんの悪口云ってますよお

ゴンドウ よしなさいナガスさん 私模範囚なんですから そんな事云って心証を悪くしたらどうしてくれるんです

ナガス 私から水を奪った罰です

ゴンドウ 奪ってませんよ もう二週間も前の話です あの後便器だってちゃんと直してもらったんだし き

れいに掃除もしてるんです 流れてくるのも普通の水道水です 飲む前にきれいにしとけば何の問題もありはしません

ナガス イメージの問題です さっきから私の頭の中で 便器から逆流する汚水とその横で身悶えのたうち

まわっているゴンドウさんの映像が何度も何度もエンドレスで上映されているんです ウエエ7

ゴンドウ イメージチェンジするんです ナガスさん

ナガス こんな強烈なイメージが今更チェンジ出来るもんですか

ゴンドウ 目をつむるんですよ そして大きく深呼吸するんです

ナガス 無駄ですよ そんなことしても

ゴンドウ いいからつむりなさい

ナガス —— こ こうですか？ (つむる)

ゴンドウ そう そうして大きく深呼吸です スーハー

ナガス スーハー

ゴンドウ どうです？

ナガス どうですって何が ——

(目を開けようと)

ゴンドウ

ナガス

ゴンドウ

目を開けちゃ行けません

ああ（目を閉じた）

どうですほら 閉じた瞼を透かして光線が見えるでしょう 緑の光線です 何処からか鳥の鳴き声も聞こえます そよ吹く風に高い梢がざわつきます 下草の微臭い匂いと杉の木肌の香りが鼻孔をくすぐります そうですここは奥深い山の杉林の中です あなたはそこをさまよっている ちよつとした散歩のつもりだったのが山中で道に迷ってしまったのです もう何日間も道なき道をうろついている 喉がカラカラです もちろん水筒なんか持ってきてきません ああ水が飲みたい今すぐ飲みたい そうでなければもう力尽きてこの奥深い山の中のたれ死んでしまうのです 死にたくないこんな山の中で一人ぼっちで死んでゆくなんてあまりにも寂しすぎる あなたは必死に水を求めるのです 水水水 水は何処だ？ 棒のような足を引き摺りながら それでもあなたは水を求めて這い回るので すうして今しも力尽きて昏倒せんばかりのあなたの鼻孔をつくかすかな匂い水の匂いです あなたはしっかりと目を見開きます 何処だ！ 何処にあるんだ水 私の水！ あなたは自分の嗅覚を頼りにそこに向かつて一目散に這い進みます —— おお すると何ともうあなたの目と鼻の先にそいつはあったのです 木目細かい大理石の肌 美しい女性を思わせるその曲線 お尻を乗せれば天にも昇るような座りごちを思わせるそれは そつ便器の形をした噴水だったのです ——

ゴンドウがトイレの紐を引っ張ると、暗示に掛かってついふらふらと便器に擦り寄っていたナガスの目の前でけたましく水洗トイレの水が流れる。

その轟音に目を覚ましたナガス、びっくりにして絶叫する。

すぐに明転。

同じ場所に、ゴンドウとナガスとスナメリが立っている。

少し気まずい間。

スナメリ 質問してもいいですか？

ゴンドウ なんですか？

スナメリ どうして奥深い山の杉林の中に便器の形をした噴水があるんです？

ゴンドウ だからイメージトレーニングなんです ナガスさんが水を飲めるようになる為の

ナガス 何がイメージトレーニングですか おかげで私每晚 トイレの中に顔を突っ込んで溺れる夢を見るんですからね これは明らかに新入りに対するいじめです スナメリさんも気をつけないといけま

せんよ

ゴンドウ 私は親切でやっただんです 現にそのイメージトレーニングによって私自身トイレの水を使えるよう

になったんですからね

スナメリ 私の国では奥深い山の杉林の中に便器型の噴水があるなんて思いもありません やはり日本という

国は侮れません

ゴンドウ いやスナメリさん それは実際にある訳じゃ無くってですね そういう状況を思い描く事に依って

トイレの水で歯を磨く事を克服するんです

スナメリ コクフク？

そうです 克服するんですよ

ゴンドウ スナメリ 何故？

ナガス 何故って——トイレの水ですよ そんなもの普通の人は口に入れたりしないでしょ
何故？

ナガス だって汚いじゃありませんか トイレの水なんですよ

スナメリ 日本のトイレの水は汚くありませんよ
そうなんですよスナメリさん トイレの水は汚くないんです 考えるにこれはね刑務所側の配慮な
んじゃないかと私 つい最近思うようになったんです 私たち囚人にトイレの水を使わせる事によ
って 人間としての視野を広げさせようという刑務所側の教育なんじゃないかってね

ナガス 何を馬鹿な事云ってるんですゴンドウさん トイレの水飲んで視界が広がるのなら ボウフラやウ
ジ虫なんか仙人になってますよ いいですかゴンドウさん これは単なるゴーモンです それも人
間としての尊厳を失わせる為の悪質なゴーモンなんです

スナメリ 二人とも云ってる事変ですよ 何処でどんな目的で使われようと 飲料水は飲料水です 飲~~ん~~で視
野が広がったり人間の尊厳を失ったりなどしません——只 飲める水をトイレに流す国 日本

ナガス はやはり悔れません

さっきから日本日本て変な人だなあスナメリさんは あなたも日本人のくせにどうしてそんなグロ
ーバルな視点で物事を語るんです？

私 日本人じゃありません

え？

私 外国人ですよ

二人 は？

スナメリ 生まれはカザフスタンなんですが 三つのときに父の仕事の関係でオマーンに行っただです イエ
メン共和国で幼稚園をすごした後 グアテマラの小学校にあげりスーダンで小学校を卒業しました

中学はチャドでクラブは軟式野球をやっていました 高校にあがってからはアルバニアで陸上部に転向したんですが膝を痛めてしまいスポーツは断念しました 失意のモルジブではリハビリがてらに素潜りやりましたが カタールで私の青春は語るに落ちてしまいやけになった私はバナアツでバツイチの女と結婚しました 今はコモロに子供と妻を残して日本に働きに出てきてるんです

ゴンドウ

—— という事はつまり —— あなたは何人なんです スナメリさん？

スナメリ

今の国籍はコモロですが 母方のエスキモーの誇りと父方のダッタン人の情熱は私の中に脈々と生きています

ナガス

それにしてもあまりにもショウ顔ですね スナメリさん

ゴンドウ

それに日本語もなんだか関西訛りだし

スナメリ

母の母 —— つまり私のおばあちゃんが大阪の天満なもので 小さい頃から夏休みにはおば

ナガス

あちゃんの家遊びに来てたんです だから日本語は大丈夫です 顔は隔世遺伝ですなきつと

スナメリ

ちよっと待ってください エスキモーのおばあちゃんがどうして天満に住んでるんです？

おばあちゃんはエスキモーじゃありません 日本の北極探検隊の女性隊員だった頃にエスキモーのおじいさんに見初められてアラスカで結婚したんです しかし不幸にも狩りに行ったおじいさんが白熊に殺されてしまったのでもう一人前だった母を残して故郷の天満に帰ったのです

二人

ふうん (疑わしい)

スナメリ

(写真を出して見せる) これコモロの妻と子供の写真です

ナガス

—— これ奥さんですか？

スナメリ

はい ちよっと大きいですがバナアツでは大きい人ほど美人です

ゴンドウ

—— この奥さんが口でくわえてるのがお子さんですか？

スナメリ

ええ マイマイって云うんです 去年小学校にあげりました

ナガス 奥さんと子供を置いて日本に出稼ぎですか 大変ですね

スナメリ 日本はコモロの十倍稼げますからね

ゴンドウ 日本に来てどんな仕事をやってるんですか

スナメリ 建築現場です 毎日セメント袋担いでいました

ナガス それがどうしてこんな所に入る羽目になったのです

スナメリ (恥ずかしそうに下を向いた) —— 私子供を拉致したんです

ゴンドウ 拉致ってあの —— 誘拐ですか

スナメリ 誘拐なんてとんでもありません ちよつと引き止めただけなんですから —— この話

ゴンドウ あまりしたくありませんね

ナガス ヤクザやチンピラは別にして こんな所に入ってるヤツはたいして誰だって自分のした話を話

ゴンドウ したいなんて思いませんよ

ナガス 同じ房に入れられてるんだから どうせ三人ともどんぐりの背比べ程度の犯罪でしようね

ゴンドウ 言つてしまえば馬鹿にされそつだから云わない程度の ——

ナガス そうなんですナガスさん —— あなた人から馬鹿にされて笑われるような事やつたんです

ゴンドウ か?

ナガス 何云ってるんです 犯罪なんて例えどんな大きな事をやつたって 捕まえられたら皆馬鹿にさ

ゴンドウ れて笑われるんです

ナガス そりやそうかもしれないけどね 本懐を遂げた人は 人から馬鹿にされようと笑われようと

ゴンドウ そんな事はきつとどうでもいいんです 例え刑務所に繋がれてもね それで満足してるんです

ナガス そんな犯罪者居るんですかねえ?

ゴンドウ 居ます 私ですよ ナガスさん

ナガス え ゴンドウさんですか？

スナメリ (下を向いて自分のした事に思い巡らせていたスナメリも顔を上げた)

ゴンドウ そうです 私 本懐遂げました

ナガス いったい何をやったんです ゴンドウさん？

ゴンドウ 聞きたいですか？

ナガス そりゃ そうまで云われたら 聞きたいですよ

ゴンドウ そうですか じゃあ話してもいいですが ロハという訳には参りません 聞き代を何か頂かないと

ナガス 聞き代って何です？私 お金なんて持つちやいませんよ

ゴンドウ 支給のタオルや晩飯のオカズで構いませんけどね 何ならチリ紙一束でも

ナガス セコいなあ ゴンドウさん

ゴンドウ 嫌なら別に構いませんよ私

ナガス だってタオルもチリ紙も必需品ですよ 無けりゃ困ります

ゴンドウ ならば今度の週末に出るウグイス豆の甘煮 あれで手を打ちましょう

ナガス 駄目ですよゴンドウさん ウグイス豆の甘煮は私の大好物なんです 野菜の煮ひたしにまかり

ませんか？

ゴンドウ まかりません ウグイス豆の甘煮です (手を出す)

ナガス ちえ ガメツイ人だな (この手を叩く)

ゴンドウ スナメリさんも聞きたいんなら 何か聞き代頂きますよ

スナメリ じゃあ 私もウグイス豆でお願いします

ゴンドウ 判りました ウグイス豆の甘煮ですね 楽しみだな今度の週末

ナガス 楽しみはいですから早く話してくださいよ

ゴンドウ はい それじゃあお話をします —— 私の生業はもとも市の委託を受けた清掃業務でしてね いわゆるバキュームカーで各家庭を一軒一軒回ってトイレの汲み取りをする仕事だったんです ——

ナガス ああ汚穢屋さんね ——

スナメリ 汚穢屋さん？

ナガス 汚穢屋さんっていうんですよ 側を通ったら臭くってね 子供の頃はよく人差し指に中指をこう掛けて —— (やって見せる) 「ベベンジョカンジョカギシメタ」ってやったもんですよ

スナメリ (不思議そうに真似してみる) 「ベベンジョカンジョカギシメタ」 —— どういう意味ですか？ 臭いものから逃れる為のいわば子供うちの呪文ですよ

ゴンドウ (その手を払う)

ナガス 痛っ 何するんですかゴンドウさん

ゴンドウ 汚穢屋で悪かったですね もう私話しません

ナガス 話しませんってそんな —— ウグイス豆の甘煮で手を打ったじゃありませんか

ゴンドウ ウグイス豆の甘煮は私の心をむやみに傷つけた慰謝料として週末きっちりと頂きますよ

ナガス 理不尽ですよそれは

ゴンドウ いいえ 理にかなった対処です 職業差別も甚だしいです 猿並みの知性しか持ち合わせてない人に 話す事なんかこれっぽっちもありませんよ

ナガス 猿並みの知性とはなんです

ゴンドウ この世に必要な仕事は数々ありますが 汲み取りの仕事は紛れもなく世に必要な仕事だったので その恩恵にはナガスさんだってきつと浴していたでしょう それをなんです

「汚穢屋」だの「ベンジヨカンジョ」だのと よくもそんな恥知らずな事が云えましたね
子供の頃は誰だつてそうやって囃し立てたもんです 私はある懐かしさを込めて子供の頃にや
った事をリフレインしたまでです

私が汲み取りの仕事だったつて云ったとき「ああ汚穢屋さんね」つて人を蔑むような目付きで
云ったじゃないですか 私そういうの敏感ですからね ビビンとくるんです

判ります私 子供の頃から知らない国に転校ばかりしてましたから 私もよく人から色目で見
られました ゴンドウさんの気持ち私はよく分かります

外国人に私の気持ちが判つてたまりますか

いいえゴンドウさん 判らないのは汲み取りを蔑む日本人の心です 世界の中で水洗式のトイ
レを使う国は僅が一握りです 私の住んだ国々もほとんど汲み取り式のトイレの国ばかりでし
た 農家の人は自分達で汲んで畑に撒きます そうでない人の家には農家の人が汲みに来ます
そうやって農家の人は肥やしを貰う訳です だから貰った家には芋やトウモロコシをおすそ分
けするのです いわば物々交換 どちらも助かるのです 汲んでもらう側の人たちは汲みにく
る農家の人に感謝します 決して蔑んだり囃し立てたりなどしません
(目が輝いた) スナメリさんそれはまさに日本の原風景です 日本もかつてそうだったんです
お百姓さんがそうやって肥やしを貰いに来たんです いわば排泄物に価値のあった時代 ——
そうです排泄物はまさに財産だったんです —— それを水に流してしまうなんて そんな
なもんが文化と呼べるのか 水洗トイレの馬鹿野郎 (とナガスに向かって怒鳴る)

ゴンドウ

ナガス

ゴンドウ

ナガスさん あなたが本来あるべきトイレの流通機構を変えてしまったんです 臭いものにベ
ンジヨカンジョするあなたが

ナガス 私 そんな大それた事してません

ゴンドウ アメリカナイズばかりが文化じゃないとどうして気がつかないんです

ナガス ゴンドウさん 話が飛んでます

ゴンドウ いいえ飛んでません 私の地域から汲み取りしきトイレが無くなってしまったのもあなたのせい
です ナガスさん —— たくさんのベンジヨカンジョが世を押しなべて汲み取りしきト

イレを下溝に流してしまっただんです

スナメリ それですねゴンドウさん あなたの犯した罪の源は 世界がすべからず清潔化してゆく中で取
りこぼした本当の文化をゴンドウさんは察知して それに怒りを感じていたんですね
私聞きたいです ゴンドウさんが何をしでかしたのか

ゴンドウ もう話さないって云ったでしょう

スナメリ 外国人として興味があるんです ゴンドウさんのような日本人がちゃんと居る事を私は知って

おきたいんです

ゴンドウ スナメリさん あなたきつと誤解してます

スナメリ いいえゴンドウさん 謙遜は止しましょう たかが人間一人の出来るレジスタンスはちっぽけ

な事でしかない私も重々承知しています しかしそれが大事なのです 私の住んだ国の一つ

にこんな格言があります タコは八本足だが百匹寄れば八百本足である ——

そのまんまじゃないですか それどいう意味の格言なんです

ゴンドウ 私もよく意味は知りませんが なんとなく判ります —— タコ一匹だと八つしかない足が百

匹寄れば八百本になるんです 凄い —— ゴンドウさんのやったレジスタンスもきつとその

ような事です

ゴンドウ そのような事じゃありませんよ 何を云ってるんです ——

スナメリ

じゃあどんなレジスタンスなんです？

ナガス

スナメリさん もう止しなさい ゴンドウさんが困ってますよ (面白がつてる)

スナメリ

だってナガスさん 私どうしても聞きたいんです ゴンドウさんの本懐を遂げたレジスタンス

ナガス

何がレジスタンスです ゴンドウさんの顔見てごらんない あれがレジスタンスって云う顔ですか？ 半骨精神だとか闘争心だとか そんなものかけらさえこれっぽちも無い目つきです
すよ あれは —— レジスタンスなんてとんでもない 店のレジスターから釣り銭誤魔化すのが精一杯って顔してますよ

ゴンドウ

ナ ナガスさん私は店のレジスターから釣り銭誤魔化してなんかいません

スナメリ

そうですナガスさん 人を顔や目付きだけで判断してはいけしないと 私天満のおばあちゃんから教わりました

ナガス

ニオウんですよ 私と同じニオイがするんです ゴンドウさんからブンブンとね

スナメリ

え？ —— (とゴンドウとナガスを嗅ぎ比べてみる)

ナガス

レジスターから釣り銭誤魔化さずとも 当たらずも遠からじでしょうゴンドウさん だから人かウグイス豆の甘煮を取り上げておいてもう話さないなんてセコイ真似するんです

ゴンドウ

それはナガスさんが話の腰を折ったからです 私はああいう態度は許しませんからね

ナガス

それじゃあ それは謝ります ウグイス豆の甘煮も慰謝料として進呈します そうして改めて

の聞き代として (自分の持ち物入れから小さな紙袋を出す) こいつを一本つけますから 話の

ゴンドウ

続き聞かせてもらえますか
何ですか それは？

ナガス

(袋の中から一本取り出して見せる)

ゴンドウ

カカリントウ (目が輝いた)

ナガス

いいいっ（と制して、すかさず袋に仕舞う）—— 極上の黒カリントウです この前の運動の時間に他の房の連中と石投げをしてせしめたんです

どうですゴンドウさん 刑務所では口にする事の出来ない甘みです これ一本で話して貰え

ませんか 悪くない話だと思っんですが

ゴンドウ

いやまあ ——

ナガス

それでもし、ゴンドウさんの本懷を遂げた話が本当だったならば その上にもう一本 黒カリントウを上乗せしましょう

ゴンドウ

カリントウ二本ですか？

ナガス

ええ ——

ゴンドウ

そこまで云われたら仕方が無い 話しますよ —— 本当にかリントウ二本ですね

ナガス

極上の黒カリントウ二本です

スナメリ

でもゴンドウさんの話が嘘か本当か どうやって判断するんですナガスさん？

ナガス

それは私が自分で判断しますよ

ゴンドウ

心配御無用です 私本当のことしか話しませんから —— しかし ナガスさん今度は話の腰を折らないように氣をつけてくださいよ

ナガス

判つてますよ

ゴンドウ

それじゃあ話しましょう —— ええとどこまで話しましたっけね？

スナメリ

ゴンドウさんがバキュームカーで汲み取りの仕事をしてたつていう所です

ゴンドウ

そうなんです 先ほども云いましたが私は私なりにその仕事に誇りをもって従事していたのですけれど やはり時代の波には逆らえません 私らの受け持つ区域も都市化の整備が進みつ

いに汲み取り式のトイレは全て 水洗式トイレに変わってしまったのです それで私の勤めていた会社は やはり市の委託を受ける生ゴミ収集業に転向してしまったのです 私達社員は生ゴミの収集員としてそのまま居残るか

なけなしの退職金を貰って退職するか 二つに一つを選ばなければなりませんでした――

スナメリ

ゴンドウ

退職しました―― 気が進まなかったんです 私には―― なんていうか もっとこう自分に合った仕事があるはずだと思ったんです―― バキュームカーで汲み取りしてた頃にあった使命感がですね 生ゴミの回収ではちよつと違ふと思つたんです

生ゴミの回収も市民のためになる立派な仕事ですよ

スナメリ

ゴンドウ

それはそうなんですが 自分の中でうまく呑み込めないんですよ 何というか

使命感

が無いんです 私の中で生ゴミはちよつと違つたんです それでなけなしの退職金で食いつなぎながら何かもつと私に合った仕事を探そうと思つたんです ですからすぐにアルバイトを探して働きました 色んな仕事を片っ端からやって そのうちに自分の本当の仕事が見付かるだろうとタ力をくくっていたんです――

それが見つける仕事見つける仕事が全部違ふんです 私のやるべき仕事じゃない 私はこんな事をするために生まれてきたんじゃないって思えてしまふんです

ナガス

それは無い物ねだりですよゴンドウさん 自分のやりたい事をやって御飯食へてる人なんてそうそう多くはありません たいていの人は食べる為に仕事をするんです 時にはしたくない事だつて我慢してやらなきゃ駄目なんですよ

ゴンドウ

ナガス

ナガスさん 私は生活の事を云つてるんじゃないやありません 人生の事を云つてるんです 何ですか人生の事って

ゴンドウ
ナガス

だから人の生きる道ですよ 何をやって生きてゆくのが大事なんです

だから生きてゆく為には まず生活でしょう 食べなきゃ死んじゃうんですからね
スナメリさんを見てごらんない 遠い外国からはるばるやって来て 日本でセメント袋担いでたつて云つてたじゃありませんか そんな事 スナメリさんが好きでやつてたと思つんですか？冗談じゃありませんよ —— 家族を食へさせる為でしょう ちょっとでも樂に暮らす為でしょう 違いますか？

スナメリ

ナガスさん 私セメント袋担ぐの大好きですよ ああ云う仕事は性に合ってます 太陽の下で体を動かすのはとても気持ちがいい

ナガス

スナメリさんは黙つてなさい

スナメリ

はい

ゴンドウ

—— スナメリさんには家族があるじゃないですか

ナガス

え？

ゴンドウ

たとえ 遠い外国に離れ離れに暮らしてたつて家族がちゃんと居るじゃないですか スナメリさんはその家族の為に働けばいいんです それがもしかしたら人生の目的かもしれないじゃありませんか

ナガス

ゴンドウさん何を云つてるんです？

ゴンドウ

ナガスさん あなたどうなんです？

ナガス

どうなんですって 何がです？

ゴンドウ

あなた家族いますか？

ナガス

いえ いませんけど ——

ゴンドウ

じゃあ 友達は何？

ナガス 友達って—— そのまあ—— 友達って呼べるかどうか知れませんが、そのあの二人ぐ

らいは——

でもそんな事なんでゴンドウさんに云わなきゃならないんですか

ゴンドウ

—— ナガスさん 私にも家族は居りません、ですけど友達は一人居ます、バキュームカーと一緒に汲み取りの仕事やってたヤツです、彼はそのまま居残って今もまだ生ゴミの収集員を続けてるんです、もしかしたら私の唯一の親友と呼べる人間かも知れませんが、そいつが私に云うんですよ、「おまえにはきつと何かある」ってね、「バキュームカーでの仕事振りは俺が一番よく知っている、その俺が云うんだから間違いはない、人生を懸ける仕事が見付かるまでガンバレ、俺が応援してやる」ってね

ナガス

そんな事、他人事だから云えるんですよ、どうせ安酒飲んだ席で出たタワ言でしょう、何が「人生を懸ける仕事が見付かるまでガンバレ」ですか、見つかるかどうかとも分らない仕事を探し出すまで、その人がゴンドウさんの生活をサポートしてくれるんですか、そんな殊勝な人が居るんなら一目お目に掛かりたいもんですよ

ゴンドウ

私の友達の悪口を言っつなっ！（立った）

ナガス

あ、立ちましたねゴンドウさん、ゴンドウさんがその気なら私だって立ちますよ（と立つ）

スナメリ

（割って入った）二人とも駄目です、ケンカをしては駄目です—— ナガスさんどうしてそ

んなに食って掛かるんです、話の腰を折らない約束だったじゃありませんか

ナガス

いい歳してそんな甘っちょろい事云ってるゴンドウさんに虫唾が走るんですよ、こんな人の云

う話の先なんかたかが知れてます、話の腰なんか私何度でも折ってやりますよ

ゴンドウ

私の親友の悪口云うような人にもう誰が話してやるもんですか

スナメリ

ゴンドウさん、私とのウグイス豆の約束はどうなるんです、私ゴンドウさんの話の続き聞きた

います

ゴンドウ スナメリさんの分はもう頂きません——ナガスさん あなたこの期に及んでカリントウが

惜しくなったんでしょう だからそんな話の腰の折り方したんでしょう

ゴンドウ ええ惜しいですとも ゴンドウさんにカリントウ分けてあげるくらいなら刑務所のネズミにや

った方がはるかにマシですよ

ゴンドウ 云いましたね 私がネズミ以下ならナガスさんなんかミミズ以下です！

ナガス ミミズ以下とはなんです！

スナメリ あ 私その日本のコトワザ知ってます ネズミにミミズって云うんですよ

二人 それは「寝耳に水」ですっ！

窓の向うに風が吹く。

スナメリ、何か気配を感じて人差し指を立てた。

スナメリ シイツ

ゴンドウ どうしました？

スナメリ 今 音がしました

ナガス 風ですよ 窓の外で風が吹いているんです

スナメリ いえ 靴音の様でした

ゴンドウ 看守さん ですか？

ナガス 騒ぎ声が聞こえたんでしょう きっと

スナメリ 見つかったらきっと怒られますよ

ゴンドウ 知らん顔を決め込むんです 寝たふりしますよ

三人、布団をそれぞれ掴んで、寝たふりを決め込む。
靴音は聞こえず、窓の外をそよ吹く風の音だけが鳴っている。
しばらく間。

ナガス (寝たふりのまま) —— 来ませんね看守さん

スナメリ 何処かに行っちゃったんでしょか？

ナガス スナメリさんの聞き間違いだったんじゃないですか？

スナメリ 私 地獄耳です 聞き間違えたりしません —— あれは確かに靴音でしたよ

ナガス そうですか —— それじゃあきつと静かになったんで戻ったんでしょ

スナメリ ええ そつかもしません ——

また間。

窓の外で風が吹いている。

ゴンドウのイビキが高くなる。

スナメリ —— ゴンドウさん —— ゴンドウさん

ゴンドウ (イビキかいてる)

スナメリ ナガスさん ゴンドウさん本当に寝ちゃったみたいですよ

ナガス 年寄りってのはすぐに寝るんですよ ほっときなさい

スナメリ ナガスさんもう寝ますか？

ナガス どうして？

スナメリ いえ ナガスさんも寝るのかなと思ったもんですから

ナガス 私が寝ようと寝まいとスナメリさんには関係ないでしょう ほっといてください

スナメリ そうですか ——

スナメリ、写真を取り出して眺める。

暗転

すぐに明転。

スナメリとゴンドウは眠っているのか、寝息を立てている。

ナガスは、布団を被って、音を立てないように、黒カレントウをしゃぶっている。
しばらく間。

スナメリが寝た格好のまま、声を掛けた。

スナメリ —— ナガスさん

ナガス (慌てて、カレントウを隠す) ビックリした —— スナメリさん まだ起きてたんですか
スナメリ 隠さなくてもいいですよ —— キリンソウ —— でしたっけ？

ナガス 何だ知ってたんですか —— カリントウです（再び舐める）

スナメリ カリントウ —— 不思議な名前ですね

ナガス そうですかね —— 眠れないんですか？

スナメリ 何だか色んな事を思い出してしまつんです ——

ナガス 最初は誰だつてそうです 私なんか未だによく眠れませんよ

スナメリ コモロは今頃朝です —— マイマイはちゃんと学校に行つてるでしょうか？

ナガス 親はなくても子は育つてね —— 日本のコトワザにありますよ

スナメリ —— そっちに行つてもいいですか？

ナガス え？構いませんけど —— スナメリさん まさかそっちの気あるんじゃないでしょうね？

スナメリ そっちの毛？ —— 私 あつちとこっちに毛はありますが そっちには毛は無いと思います

多分 —— （何を云つてゐんだ？）

ナガス （あきれた） —— そうですか 判りました どうぞ

スナメリ （ナガスの横へ）失礼します ——

と云つて、ナガスの口元をじつと見つめる。

ナガス （氣付いて）なんですか 人の口元じつと見詰めて —— 気持ち悪いなあ

スナメリ （何だか思い詰めてる）それがキリンソウ ですか

ナガス カリントウです！ あげませんよ —— そっぽ向いて舐める

スナメリ いえ そついうつもりは毛頭ありません —— 只

ナガス 只？ —— 何です

スナメリ 日本にもそついった風習があるんだなあと思つたんです

ナガス 風習? —— いったい何の話です?

スナメリ いえ いいんです —— ナガスさん

ナガス なんです

スナメリ 私心配なんです 所長さんに聞いた話では一ヶ月程でここを出られる予定なんです ——

ナガス だつたら大丈夫でしょう 所長がそんな事で嘘をつくと思えないしそつ云うんだつたら一ヶ月で出られますよきつと

スナメリ その後の事です こんんな事になつて親方はきつと怒っています もう私の事を雇つてくれない

のではありませんか?

ナガス ああそつかもしれませんね

スナメリ もしそつなつたら私 路頭に迷つてしまいます 私が路頭に迷えば妻とマイマイも困ります

ナガス 日本は働き口に困りませんよ プライドさえ捨てれば 何をやつたつて食べてゆけますよ

スナメリ 日本にはコモロ人はほとんど居ません 天満のおばあちゃんも死んで居ません 親方に見捨てられたら私 日本に一人ぼっちです これからどうすればいいのか途方に暮れます

何が云いたいんですスナメリさん?

スナメリ ここで会つたのも他生の縁です ナガスさん 何か仕事を紹介してもらえないでしょうか?

ナガス 馬鹿云つちやいけませんよ そんな事私に出来る訳がありませんよ

スナメリ 私が外国人だからですか? コモロ人ではやはり駄目ですか?

ナガス そつじやありませんよ ——

スナメリ 私何でもやります こつ見えても力はあるんです ナガスさんお願いします

ナガス そんな事所長に頼めばいいでしょう きつと何かいい仕事を紹介してくれますよ

スナメリ それは駄目です ここを出ればもう間もなくビザも切れるんです 私 強制送還になります

所長はもちろんそれ知ってます 仕事なんか紹介してくれませんか

ナガス じゃあ違法就労覚悟で日本に来てるんですかスナメリさん

スナメリ そうです ここを出れば私 何処かに隠れなければならないのです

ナガス 大変ですねえ 外国人も

スナメリ 大変なんです だからナガスさんお願いします 仕事紹介してください

ナガス 駄目ですよ 何度云っても無理なものは無理です

スナメリ —— そうですか 判りました

スナメリ、自分の寢場所に戻る。

ナガス —— 悪く思わないでくださいよ スナメリさん

スナメリ いえ いいんです 無理を云って済みませんでしたナガスさん

少し間。

カリントウを舐めていたナガス 少し気が引けたのか、思い付いてスナメリの所へ行く。
持っていた袋の中からカリントウを一本出して、スナメリに進めた。

ナガス どうですスナメリさん カリントウです ゴンドウさんには内緒ですよ
スナメリ わ 近づけないでください

ナガス 何です？どうしたんです？

スナメリ 引っ込めてください それ

ナガス それって —— カリントウですか？ ——

スナメリ そうです

ナガス どうして？美味しいんですよこれ

スナメリ いりません

ナガス 気を悪くしたんですか —— (カリントウを袋に戻して) —— スナメリさん

私別に意地悪や偏見で スナメリさんに仕事を紹介しない訳じゃありませんよ

私にはスナメリさんに紹介できる仕事なんてないんです だって私自身これと云った仕事について無いんですからね

スナメリ —— どういう事です？

ナガス —— 私ね ガード下で浮浪者やってたんですよ だから仕事なんかロクにしてないんです

スナメリ 浮浪者 —— ルンペンですか？！

ナガス ルンペン？ —— ああ 他人^{ヒト}から見ればそう呼ばるんでしょうね

スナメリ 済みません 私言葉よく知らないもんで ——

ナガス ルンペン知ってればたいしたもんですよ —— そうです 私はルンペンです 一時はダンボ

ール回収の仕事なんかもやってたんですけどね —— 一緒に暮らしてた他のルンペン仲間二人に誘われて 工事現場のお弁当ロボウやっただんです

スナメリ お弁当ロボウ？

ナガス ええ —— 現場の作業員が仕事をしている隙に 休憩室からお弁当や小銭を盗むんです

それが尽く上手くゆくものだから調子に乗っていたら—— 目をつけられていたんでしようね あつさりと捕まってしまいました 私だけがです—— 他の二人は途中で気付いて逃げたんでしょう 後で口を割らされてガード下に行ったときにはもぬけの殻でした——

スナメリ

それは—— 大変でしたね

ナガス

私 一生あの二人の事は忘れません 自分さえよければ私の事なんか置き去りにする二人です ここを出たら きつと見つけ出して あいつ等に復習してやるんです (舐めてたカリントウを思わず齧ってしまふ) あ いけない 齧っちゃった——

スナメリ

でも その人たちの事なんでしょう—— さつき云つてた二人の友達つて云うのは

ナガス

ゴンドウさんのせられて つい口からでまかせ云つたんですよ あんな連中の何が友達なものですか スナメリさん 他人なんかに気を許すもんじゃありません 友達面しても所詮他人は他人です (また齧る) あ また齧っちゃった クソウ 私の夜の楽しみがあつと云うまに終わってしまった—— スナメリさんのせいですよ もう寝ます

ナガス、寢場所に戻って、すぐに寢息を立てる。

スナメリ、まんじりともしない。

暗転

明転。

朝である。

起床の合図とともに三人一斉に飛び起きる。布団を畳んで重ねる。各自の所持品入れから歯ブラシとコップ（？）を出す。三人とも、本当はオシッコがしたいのだけれども、オシッコの後で歯を磨くのは気分的に嫌だから、我慢をして先に歯を磨くのである。ゴンドウからスナメリに便器を綺麗にするようにとの指示が出る。スナメリ、新米なものであまり要領を得ない。ゴンドウとナガス、オシッコを我慢しているの、イライラしながらスナメリのタオルで便器を擦るのだと手取り足取り教える。スナメリ、ようやく便器を磨き終える。水を流す。さらに流してから、それぞれのコップに水を汲んで歯磨き。ナガス、オクビする。三人とも、早く小用を足したいものだから、歯を早く磨こうとする。二人を出し抜いて磨きながら小用を足すものがでる。三人、歯磨きと小用を終えて、歯ブラシとコップを片す。看守が来る気配。三人一列に横並び、点呼を取る。朝御飯が差し入れられる。三人、食べる。食べ終えて盆を返し、整列して廊下に出る。作業場へ向かう。三人一組の流れ作業である。要領を得ないスナメリに、ゴンドウとナガスがコツを教える。何とか流れが出てきて、三人一体となって作業をする、が、スナメリ、またすぐにヘマをして流れが止まってしまふ。

ナガス

スナメリさん あなた本当に不器用ですね こうやるんですよ こう

スナメリ 済みません ——

ゴンドウ 謝る事なんか無いですよスナメリさん なれてしまえばどうって事も無い作業です

ナガス 何を悠長な事云ってるんですか ゴンドウさん 能率が悪くなれば後で小言食うのは三人一緒

なんですよ スナメリさんのせいで私まで怒られたんじゃ割に合いませんよ

スナメリ 本当に済みません ナガスさん (頭下げる)

ナガス 頭下げても仕事は覚えられませんかよ 手許を見なさい私の手許を ここはこうこうしてこう

ゴンドウ ああ ナガスさん カ入れすぎですよ そんなにしたらせつかくの製品が台無しになりますよ
ナガス これくらいで台無しになんかなりませんかよ 何を云ってるんです さあスナメリさんやってこ
らんなんさい ここはこうこうしてこうです

スナメリ (交代する) ここはこう —— こうしてこう ——

ナガス 違いますよ ここはこう！こうしてこうです！

ゴンドウ だから駄目ですつてばナガスさん そんなに力を入れては

ナガス ゴンドウさんは黙っててください ここはこう！こうしてこう！ (バキッ) あ ——

ゴンドウ ほら だから云ったじゃありませんか そんなに力任せにやったら駄目なんですよ

スナメリ 済みません

ゴンドウ スナメリさんが謝る事はありませんよ ナガスさんがやったんですから

スナメリ —— ナガスさんは私に親切で教えてくれましたが 私が不器用だからナガスさんはイライラし

てつい力が入ってしまったんです ナガスさんのせいではありません 私のせいです

—— 私 看守さんに謝ってきます

ゴンドウ そんな必要ありませんよスナメリさん こんな事はよくあるんです 一つや二つ失敗したくら

いで 看守さんも目くじら立てたりなんかしませんよ それよりも続きをやりましょう

量はらがいかないとそれこそ怒られますよ さあ氣を取り直してやりますよナガスさん (ほんと

肩叩く)

ナガス —— 私 班替え申し入れます

ゴンドウ え?

ナガス 看守さんに頼んで班替えしてもらいます 幾ら刑務所だつてそれくらいは吞んでくれますよね
ナガスさん何をいつてるんです?

ナガス 何ですかゴンドウさん にこにこしちゃつて —— 「さあ氣を取り直してやりますよナガス

さん」ですつて —— そんなに私の失敗したのが嬉しいですか? そりやどうせ私はゴンドウ
さん程 仕事も出来ませんよ うだつの上がらない人間ですよ 「私のするべき仕事じゃない」
なんて余裕かませる男じゃありませんよ —— しかしですね そんな人を見下したような態
度の人と一緒に仕事なんかやつてられません 私看守さんに頼んで班替えしてもらいます
わたしは別にナガスさんを見下したりなどしていませんよ

ナガス じゃあ わたしのヒガミでいいです とにかく私 ゴンドウさんと一緒に仕事したくありませ
ん 同じ場所です息するのも嫌でたまりません あわよくば班替えと一緒に房替えも申し出ます
止めてくださいナガスさん 私のせいで二人がケンカするのは良くありません 私切ないです
つらいです

ナガス スナメリさん これはスナメリさんのせいじゃありません 昨日からわだかまつてる私の
ゴンドウさんに対する気持ちです

ゴンドウ 私の何をそんなにわだかまつて云つんです

ナガス 途中で終わった本懷遂げた話です 何を本懷遂げたか知りませんがあの話は人をなめてます

きつと最後まで聞いたら耳が腐ってしまうような話です

ゴンドウ 何を根拠にそんな事を云うんですナガスさん

ナガス 私は 負け犬です 負け犬は目を見ればそいつが仲間かどうか判ります —— ゴンドウさん

あなた私と同じ目をしてるんですよ だから私は —— ゴンドウさんを許せないんです

ゴンドウ ナガスさん 何を許せないのが知りませんが私は負け犬じゃありませんよ

ナガス そういうのを負け犬の遠吠えって云うんです

ゴンドウ 云いましたね ナガスさん

スナメリ 止めてください 私のせいでケンカはいけません 日本の歌にもあるじゃありませんか

♪ケンカをやめてえ 二人を止めてえ 私のせいで争わないでえ♪

三人、くんずほぐれつ。

ぴぴーッと看守の笛が鳴る。

暗転

明転。

元の房である。

便器の脇でスナメリがゴンドウを肩車している。何やら水洗トイレの紐を調べてるへてるらしい。ナガスは居ない。

スナメリ 早くしてください ゴンドウさん 重いのと臭いのと私二重苦です

ゴンドウ ちよつと待つてくださいよ

スナメリ もうあんまり待てません 重いだけなら踏ん張りも効きますが この二オイはちよつと ——

私 頭が霞んできました

ゴンドウ だらしが無いですねスナメリさん エスキモーの誇りとダッタン人の情熱はどうしたんです
スナメリ エスキモーの誇りもダッタン人の情熱もゴンドウさんのウンチの前では黄ばんでしまふばかり
です

ゴンドウ だから早く流そうとしてるんでしよう もうちよつと我慢してくださいよ —— おかしいな
あ この紐の付け根が引つかかっているはずなんですがねえ

スナメリ うわあ

ゴンドウ どうしたんです ビックリさせないでくださいよ

スナメリ すみません 便器の中身が見えてしまったんです

ゴンドウ 悪趣味だなあスナメリさん 見ないでくださいよ 恥ずかしいじゃありませんか

スナメリ 私だって見たくて見たんじゃありません 肩車してたらつい首がうなだれてしまふんです う

わあ —— また見てしまいました

ゴンドウ 目を開けるからですよ 見えそうになったらギョッと目をつむるんです

スナメリ あ なる程 (目を固く閉じる) ギョッ つむりましたよゴンドウさん

ゴンドウ じゃあそのままもう少し我慢してくださいよ —— ええと(調べよう)

スナメリ うわあ

ゴンドウ なんですか もう

スナメリ 濟みません ギョッと目をつむったんですが首がうなだれた瞬間に思わず目を開けてしまった
んです

ゴンドウ うなだれた時に目をつむらなければ意味無いじゃありませんが
スナメリ あなる程
ゴンドウ 静かにしてくれないと調べられないですよ
スナメリ 判りました
ゴンドウ ええと ——（調べようと）

スナメリ、肩車のまま、いきなり檻の手前まで走る

ゴンドウ わ何をするんですスナメリさん

スナメリ 深呼吸です スーハースーハー

ゴンドウ —— 降ろしてください スナメリさん

スナメリ え 降りるんですか？

ゴンドウ 何だか調べる気が失せましたよ（降りる）

スナメリ あのまま放っておく気なんですか

ゴンドウ あなたが調べさせないんじゃないやありませんか スナメリさん

スナメリ もう一度 看守さん呼んでみます（檻の外に向かって）看守さん 看守さん ——

トイレの水が流れないんです ちょっと来てくれませんか ——

外からの答えはない。

ゴンドウ 無駄ですよ 何度呼んだって来てくれやしません —— 楽しんでるんですよきっと 私達が

慌てふためくのをニヤニヤ笑って楽しんでるんです 静かにしてればそのうちひよっこりやつてきますよ

スナメリ それまでこのニオイを我慢しろって云うんですか

ゴンドウ 慣れれば 田舎の畑でくつろいでいるような気になりますよ

スナメリ ゴンドウさんは自分のウンチだからそんな悠長な事が云えるんです 私の見にもなってくだ

い 何を食べたらいこんなにくさいウンチが出るんです

ゴンドウ 何を食べたたらって 私スナメリさんと同じ物しか食べてませんよ

スナメリ じゃあきつと ゴンドウさんのお腹の中にはウンチを人の倍クサクする虫がいるんです

ゴンドウ 失礼な事云わないでください 私虫なんか飼ってませんよ —— 多分

スナメリ ああ 私もナガスさんと一緒に別の房に移れば良かったです

ゴンドウ 何を云ってるんです ナガスさんは別の房に移った訳じゃありませんよ懲罰房に入れられてる

だけです ニ・三日すれば またここに戻ってきますよ

スナメリ 懲罰房 ——

何しろ看守さんを殴っちゃいましたからねえ

ゴンドウ あれは殴ったんじゃないやしません ケンカを止めに入った看守さんの顔にたまたまナガスさんの

スナメリ 肘が当たっただけです

ゴンドウ それでも看守さんにしてみれば殴られたのと同じ事です —— 私ら囚人が何を弁解したって

無駄なんですよ

スナメリ 懲罰房って何をされる所なんです ゴンドウさん？

ゴンドウ さあ —— 映画で見た事ありますがね 狭い小さな箱のような所に押し込められて 残飯の

ような食べ物しか与えられないんです 昼も夜も判らない真つ暗な所で充分に身動きも取れず

に只じつとしているだけしか無い所らしいですよ

スナメリ　じゃトイレなんか」どうするんです？

ゴンドウ　そりやもつたし流しですよ　狭い暗い所で自分の排泄物にまみれながら只じつとしているしが無いんですからね

スナメリ　それはゴンドウさんのウンチのニオイを我慢するよりもオソロシイですかね？

ゴンドウ　当たり前です　何を云ってるんです

スナメリ　かわいそうですね　ナガスさん

ゴンドウ　まあね　自業自得とも云えますが　——　しかし奇妙ですね
スナメリ　何です？

ゴンドウ　いや　ここのトイレですよ　——　ほら便器の上からも紐が垂れてるでしょう
スナメリ　ええ

ゴンドウ　普通は上に水の入ったタンクがあつて　そこから紐が垂れてるんです　つまり水を流す弁を開く為の紐なんですよね　——　ところがここのトイレは天井から直接紐が垂れてるんですよ

スナメリ　そう云えばそうですね　——　どういう訳なんでしょう？

ゴンドウ　天井裏に水のタンクがあるんでしょうかね

スナメリ　そうかもしれませんよ　囚人の手の届く所にタンクがあると何か都合の悪い事があるのかも知れませんが

ゴンドウ　そうですね　手の届く所にタンクがあれば　便器から直接水を汲む事ありませんからね

スナメリ　あなる程　——　上手い事を考えるものですね　刑務所側も

ゴンドウ　何を云ってるんです　おかげで我々囚人は便器の水を使う羽目になるんです
スナメリ　あなる程　——　恐るべし刑務所の謀略　——

ゴンドウ

—— しかし 何だか変ですよね天井から直接紐が垂れてるって云うのは 昔読んだお話にこれに似たのがありましたね ——

スナメリ

何ですか そのお話って？

ゴンドウ

「蜘蛛の糸」って云うやつです 地獄に落ちた亡者の群れに極楽のオシヤカ様が蜘蛛の糸を垂れるんです それに気付いたカンダタって云う男が蜘蛛の糸とどん登ってゆくんですよ

すると後から後から他の亡者達も登ってくるんです そんなに大勢登つちや蜘蛛の糸が切れてしまふと思ったカンダタは足元の亡者の群れを蹴落とすんですね すると自分の掴んでた蜘蛛の糸が切れてカンダタもまた地獄に落ちてゆく —— そんな話ですよ

スナメリ

トイレの紐が蜘蛛の糸って訳ですか

ゴンドウ

ええ

スナメリ

しかし 上は極楽どころかすぐに天井ですし 下に落ちればトイレに片足突っ込むのが関の山
38

ゴンドウ

しかし 首吊るぐらいは出来るんじゃないやありませんか？

スナメリ

首を吊る？何故です？

ゴンドウ

天国に行く為ですよ —— いやこれは冗談ですよ スナメリさん 私そんな事これっぽっち

も考えていませんからね

スナメリ

—— ここに入って そついう事を考えた人もいるんでしょうか？

ゴンドウ

悔やみに悔やんだ人とかね 居るのかも知れませんが —— でもトイレの紐なんかで人間の

体重を支えきれぬ訳ありません 首吊りはやはり無理でしょうね

スナメリ

ゴンドウさん 私何だか気分が悪くなってきました

ゴンドウ

首吊りの話ですか？

スナメリ　いえ このニオイのせいです　——
ゴンドウ　もう一度 紐の具合を調べてみますか
スナメリ　駄目です　もうこれ以上便器の側に近寄りたくありません
ゴンドウ　それじゃあ 看守さんを待つより他ありませんよ
スナメリ　仕方ありませんね　チリ紙を鼻に詰めます

スナメリ、チリ紙を出して鼻に詰める。

ゴンドウ　私のウンチってそんなに臭いんですかね　——　（少し気分を害してるぞ）

スナメリ　ええ　——　ゴンドウさん

ゴンドウ　何です？

スナメリ　ゴンドウさんの友達は　ゴンドウさんがここに居ることを知ってるんですか？

ゴンドウ　ああ　——　まあね　知ってますよ　——　それがどうかしましたか？

スナメリ　聞きたいんです　——　ゴンドウさんのその友達はゴンドウさんに前科があっても　以前と

同じように友達のままで居てくれるのかどうか

ゴンドウ　突然何を言い出すんです？

スナメリ　済みません不躰で　——　そんな事　ここを出て友達と再会してみなければ判らないことでし

ゴンドウ　ようけれど　——　その所をゴンドウさんはどう思っているのか聞いてみたかったんです

スナメリ　そりゃまあ　——　あいつは親友ですからね　多少の非難もあるでしょうけど　きっと私のこ

とを心配してくれていると思いますよ

スナメリ　ここを出れば　すぐに友達に会いにゆきますか？

ゴンドウ そうですねえ —— すぐにかどうかは判りませんが まああいつしか居ないですからねえ

腹を割って話せるのは

スナメリ 友達に会うのに勇気が要りますか

ゴンドウ そうですね —— 多少は勇気がいらいますかね

スナメリ でも会えますね

ゴンドウ ええ 会いますよもちろん

スナメリ 良かった その言葉が聞きたかったんです —— 私 妻とマイマイに手紙を書きます

ゴンドウ 手紙ですか？

スナメリ はい 私に日本の刑務所に繋がれている事が彼女たちの耳に入っているのかどうか知りませんが

その訳ととききさつを手紙に書いて知らせようと思つんです —— 今のゴンドウさんの

言葉を聞いて私も少し勇気が出ました

ゴンドウ でもそんな手紙なんか出して奥さんやお子さん かねって不安になりませんか

スナメリ 大丈夫ですきつと —— 妻とマイマイは判つてくれます ナガスさんは他人を信じるなと云

いましたが妻と子供はきつと私を信じているはずです ゴンドウさんの友達がゴンドウさんを

信じているようにです

ゴンドウ ならいいですが ——

スナメリ 何だか私元氣がでてきました 今ならセメント袋十袋一遍に担げるような氣がします フウフ

ウ（とチリ紙を吹く）

ゴンドウ スナメリさん チリ紙が飛びますよ

スナメリ ゴンドウさん どちらが先に出るか判りませんが ここを出たら何処かでまた落ち合いましょ

う 出来ればナガスさんも一緒にです そうして三人で女の子ナンパして引き連れてカラオケでも行きましょう 私 女の子とラクカラチャ唄って踊ります

♪ ラクカラチャラクカラチャ 一緒に踊りましょう —

ゴンドウさんも一緒に踊りましょう

ゴンドウ え？嫌ですよ私は —

スナメリ

いいじゃないですか ほらこつやるんです (ゴンドウを無理矢理立たせて二人で踊る)

♪ ラクカラチャラクカラチャ 一緒に踊りましょう

ラクカラチャラクカラチャ ウンチ臭いけど

ラクカラチャラクカラチャ

めんこいゴキちゃん

ラクカラチャラクカラチャ

追っかけっこしましょう —

明転。

ナガスが戻ってきている。

カリントウの入った袋を覗いて、しきりに数えている。

暗転。

ナガス

イチニイサンシィ — (首をひねる)

— ヒィフウミィヨォ — (首をひねる)

— ワンツウスリィフォ — (首をひねる)

—— イイリヤンサンスウ —— (首をひねる)

ゴンドウ うるさいですねえ ナガスさん 声を出さなきゃ数えられないんですか

ナガス おかしいなあ どんな風に数えてもカリントウが四本しか無いんです

ゴンドウ 数え方変えたってカリントウの数が増える訳無いでしょう

ナガス ですが懲罰房に行く前には確かに6本残ってたはずなんです ——

スナメリ 自分で食べたんでしょう —— 勘違いですよナガスさんの

ナガス 私 こういう事に関しては はっきりと記憶してるんです 間違はなく6本あったんですよ

スナメリ でもまだ4本あるんでしょう 良かったじゃありませんか

ナガス 何が良いんですか 6本あったのが4本なんですよ 2本も足りないんですよ

ゴンドウ ここを出れば カリントウぐらい嫌という程食べられますよ

ナガス 馬鹿を云っちゃいけませんよ ここで人から羨ましがられながら一人で食べるカリントウだから美味いんです 至福なんです ここを出てワザワザカリントウなんか買って食べませんよ

ゴンドウ ナガスさんあなたって人は本当に嫌な性格してますね

ナガス ゴンドウさん程じゃありませんよ

ゴンドウ ナガスさん あなたまた私にケンカを売ろうって云うんですか

ナガス いいえ ケンカを売る気なんかさらさらありません —— 只 私が留守の間にこの房にはゴ

ンドウさんとスナメリさんの二人しか居なかったでしょう でも二人のうち スナメリさんは

カリントウを見るのも嫌がるんですよ そうですよスナメリさん

スナメリ ええ まあ

ナガス ですから スナメリさんがカリントウに手を出す可能性はまず考えられないんです

ゴンドウ 私が盗ったって云いたいんですかナガスさん

ナガス それ以外にどう考えたらいいんです？

ゴンドウ 私そんなもの盗りません

ナガス じゃあ刑務所のネズミが齧ったとでも云うんですか

ゴンドウ 知りません！

スナメリ ナガスさん ゴンドウさんはそんな事していません —— 私いつも一緒に居たんですよ

ナガス すから私が証人です

スナメリさん あなた夜も寝なかつたって云うんですか？

スナメリ そりや寝ます 寝ますけどいつも私より先にゴンドウさんがイビキをかいてたんです

ナガス 年寄りには夜も早ければ朝だつて早いんですよ スナメリさんが白川夜船の時にはもうゴンドウさ

んは目が覚めてるんです そうでしようゴンドウさん？

ゴンドウ 朝早く目が覚めるからつてそれが何です？ 私がナガスさんのカリントウを盗つたつていう証拠

にもなるんですか？

ナガス 証拠なんて何もありませんよ カリントウのふたづぐらい胃袋におさまつてしまえばアトカタ

もありませんからね 私はゴンドウさんの良心に訴えているんです —— 最初にカリントウ

を二本なんて話を持ち出したのは私ですからね 端からゴンドウさんにあげたもんだと思つて

しまえば私の氣だつて済むんです 私が食べましたつてゴンドウさんが謝ってくればです

私 盗つてません！ 何度云つたら判るんです 盗つてないつて云つたら盗つてないんです

—— 私 聞きましたよ ゴンドウさん

ゴンドウ な 何をです？

ナガス 隣の懲罰房に居たヤツが「ゴンドウさんの事知つてたんです あなた二十四時間営業のファ

ミリーレストランで無銭飲食やつたそうじゃないですか それも聞けば三日間も居続けて飲み

食いし続けたたさうですね 笑っちゃいますよ 本懷遂げたって云うから何かと思えば無銭飲食ですか さぞかし本懷遂げるほど 好きな物腹一杯食べたんでしうね

スナメリ

ゴンドウさん —— 本當なんですか今の話？

ゴンドウ

本當だつたら何です？笑いますか スナメリさん？

スナメリ

いえ ——

ナガス

笑いなさいよスナメリさん ほら一緒に笑つてやりましょうよ どうせそんな事だろうと思つてたんです 本懷遂げたなんて嘯いて蓋を開ければケチな無銭飲食だなんて 笑う以外どうしたらいいんです 二人で笑つてやればきつとゴンドウさんの氣持ちだつて軽くなるんです うでしよう ゴンドウさん？

ゴンドウ

—— ファミリーレストランに行く前の三日間 —— 私は無け無しのお金でフランスパンを一本買つて そいつを少しづつ飲み下していました —— 三日目の夜に最後の一口を食べべたんですが その夜は空腹で寝付けなくてフラリと外に出てみたんです 街道沿いの道を歩いていたら電話ボックスが目に入りました 私は電話しようかどうか迷いました あいつにです あいつに電話してお金を少し貸してもらえたら そうしたら 明日こそは職安に行つてちゃんと仕事を見つげるんだと考えたんです —— だけどその時にはもう夜中の十二時を過ぎていたので迷惑になると思い電話するのを止めたんです それたくなる氣持ちがしたのです 氣がつけば目の前にオールナイトのファミリーレストラからまたトボトボ歩いていったんですが電話ボックスばかりが目について 何だか叫びだしんがありました 私は自分の空腹も手伝つてその中にフラフラと入つていったのです レストランの入り口にやはり電話があるのか目に入りました 私はそれを見て安心し 今度は堂々と胸を反らしてウェイターの案内する席に着いたんです メニューを見ると目がくらくらするような食べ物写真が一杯並んでいて その

中で一番美味しそうなものを指差して注文しました。これでもう後戻りはできません。私は電話の所に行き十円玉を入れて友達の電話番号を廻しましたが呼び出し音を十二回聞いて受話器を置きました。多分もう寝入ってるんだろうと思ったんです。しかしまたもう少し後で

電話しようと考えて席に戻りました。しばらくすると注文の品が来ました。美味しそうな肉の生姜焼き定食です。私は夢中になってそいつを食べました。そうして食べ終わってまだ十分しか経って無いことに気が付いたのです。きつとあいつはまだ起きないだろうと考えて。もう一品唐揚げの載ったラーメンを注文しました。そいつをゆっくりと時間を掛けて食べて。その後コーヒークワインを注文してゆっくりと飲み。朝になるのを待とうと思ったんです。朝になってあいつが起きる時間を見計らって電話をしようと決めて。私はラーメンをゆっくりと啜りました。三十分掛けてラーメンを食べ終わりそれからコーヒークを注文しました。煙草が吸いたかったですが煙草を買ってお金もありませんでした。

コーヒークをちよつとづつ啜りながら私は長い夜が明けるのを待ったのです。――

スナメリ

もういいです。ゴンドウさん。もうそれ以上何も話さなくていいです。―― 済みませんナガ

スナメリ

え？
スさん。カレントウ私が盗ったんです。ごめんなさい。

スナメリ

マイマイが病氣なんです。ゼンソクです。だから私マイマイに秘伝の特効薬を送ってやりたかったんです。許してください。

ナガス

ち。ちよつと待ってくださいよ。スナメリさん。話が見えませんか。秘伝の特効薬？一体何の話をしてるんです。

スナメリ

だから私がカレントウを盗んだ話です。―― 父方の家に代々伝わる漢方薬なんです。私も子供の頃。ゼンソクだったんですが親にその薬を飲まして貰って治った覚えがあるんです。

ナガス

スナメリさん カリントウは漢方薬じゃありませんよ 只のお菓子です

スナメリ

ええ 私も驚きました 日本人があんなものをお菓子にしてるだなんて やはり日本人は侮れません

ナガス

一体何の話をしてるんです？

スナメリ

—— 実を言うと私が子供を拉致したっていうのもその為なんです その漢方薬というのは子供のウンチから作るんです

二人

スナメリ

子供のウンチを甘草と糠と一緒に竹筒に詰めて土の中に埋め 一ヶ月熟成させるんです それを素焼きの壺の中で濾過して 上澄みを服用するんです ゼンソクなど一発で治ります

—— 私それをマイマイに飲ませてやりたかったんです

ゴンドウ

それで子供を拉致したんですか？

スナメリ

ええ 公園で遊んでた子供を公衆トイレに連れ込んだのまでは良かったんですが お尻に竹筒をあてがったら泣き出してしまったんです 私慌ててその子をなだめすかしたりしたんですが何故か余計に泣き出してしまい 不審に思ったその子の友達がお母さんを連れてきてしまったんです 私はトイレから出るに出られず困り果てました やがて騒ぎが大きくなってお巡りさんが来てしまったんです

ゴンドウ

弁解できなかったんですか？

スナメリ

どうやって弁解するんです 私は手に竹筒なんか持つてるし 子供はお尻押さえて泣いてるし 「この子のウンチが欲しかった」なんて云えばそれこそ変態扱いです

ナガス

しかしその話とカリントウがどう結びつくんです

スナメリ

代用できるかも知れないと思ったんです もしかしたらキリンソウでもいけるんじゃないかと

ナガス
スナメリ
(カリントウ出して) スナメリさんあなた まさかこれの事を(とスナメリの顔に近づける)
わ 近づけないでください — 返します ナガスさん もう形が判らないように粉々に砕
いてしまいました(が 妻とマイマイに送る手紙の中にちゃんと包んであるんです(手紙を出そ
うと)

ナガス
スナメリ
いりませんよもう 粉々に砕いたカリントウなんて

済みませんナガスさん 済みませんゴンドウさん 私のせいでナガスさんにもゴンドウさんに
も嫌な思いをさせてしまいました

ゴンドウ
ゴンドウ
もういいですよスナメリさん 私はスナメリさんなんかよりもっと謝って欲しい人が居るん
です

ナガス
ゴンドウ
(そっぽ向いてる)
(あきれて) ま いいんですけどね — でもスナメリさん その粉々に砕いたカリントウ

スナメリ
ゴンドウ
は多分ゼンソクには効きませんよ
え やはり駄目なんですか?

スナメリ
ゴンドウ
ええ カリントウっていうのは子供のウンチでは無く 実は犬のウンチでできてるんです ね
えナガスさん?

ナガス
スナメリ
え? ええ まあね
そうだったんですか — それは私も危惧していたんです 形とか大きさとかまさに其の物
ですからね — やはり効きませんか ゼンソクには — 然し 犬のウンチを食べるだ

なんて やはり日本という国はあなどれません

すぐに明転。

ゴンドウとナガスが笑い転げている。

スナメリは居ない。

ナガス　しかし、あんな事　まじめな顔して云いますかね

ゴンドウ　まじめな顔で云うから　相手だつてそう思い込むですよ

ナガス　スナメリさん　本気で思い込んでましたよ　カレントウが犬のウンチだつて

ゴンドウ　——　然しあの人今頃どうしているんでしょうかね　まさかまた竹筒懐に忍ばせて何処かの子

供を付け狙つてゐるんじゃないでしょうね

ナガス　さあね　もしかしたら強制送還でもうコモロに帰ったかも知れませんよ

ゴンドウ　それもまた良しです　——　幾ら稼ぎが無いとしたって　妻子と一緒に暮らしてるのが一番で

すよ　スナメリさんは

ナガス　私もそう思いますよ　——　ちくしょう　もう一度人生がやり直せたらなあ

何処からか、手紙がヒラヒラと舞い込んでくる。

手紙　やり直しましょう（ビールなんか飲んでる）

ナガス　何だこれ？

手紙　スナメリからの手紙です

ナガス　あ　スナメリさんからの手紙ですよ

ゴンドウ

え 本当ですか？

二人、封を破いて中を見る。

手紙

ハロウ ミスターゴンドウ ミスターナガス 獄中お見舞い申し上げタテマツリツカマツリまして御免ください

ナガス

何だこの文章？

ゴンドウ

きつと日本語の手紙なんか書いた事無いんですよ

手紙

お蔭様で 無事そちらを出ましてから私 元の親方の所へ厚かましくも顔出して殴られましたもう私の顔など見たくも無いとの事 ケンもホロロにうっちゃりました ビザも切れるしどうしようどうしようしていた所 私は泣いていましたが 親方の所で一緒に働いていたケンキチくんが見るに見かねて 友達のイラン人を斡旋してくれました ケンキチくんの友達のイラン人はモハメドさんと云います モハメドさんはとても私に親切にしてくれて 仕事と住む所を私にあてがいました モハメドさんの仕事と云うのはNTT関係の仕事だそうで モハメドさんは毎日テレホンカードを作っています そのテレホンカードを数人の社員で売るのでありますが私もその一人となって街中で営業しています 普通で買う値段の半分で売るので私はビックリしましたが モハメドさんはそれでも儲かると云いましたから 私は安心して営業に精を出しています 今は刑務所と同じくらいの広さの所に他のフイリピン人の営業の人たちと四人で暮らしています 皆で気持ちよくなる薬の廻し打ちとかやってとても楽しいです モハメドさんは売れば売るほど私の儲けが多くなるといいます だから私は頑張ってたくさんたくさんテレホンカードを売って妻とマイマイにいっぱいお金を送ろうと思います

マイマイのゼンソクの葉を早く送ってやりたいです 隣の部屋に子連れの女のフィリピン人の人が居ますので 今度は訳を話して ちゃんとウンチを貰おうと思つています
ピーエス モハメドさんにゴンドウさんとナガスさんの事を話しました モハメドさんは雇つてもいいと云つています もしよければ一緒に働きますか？ そうでなくとも私は毎日午後の三時頃日雇い橋のたもとで立つていますので出所したら来てください 三人でナンパしてカラオケ行きましょう 首を長くして待つてます スナメリ —

手紙 去る。

ゴンドウ

ナガス

ゴンドウ

ナガス

ゴンドウ

ナガス

ゴンドウ

ナガス

ゴンドウ
ナガス

ナガスさん
はい
これは良い手紙なんでしょうかね？
そうじゃないですか スナメリさん幸せそうですし
そうですよね これはこれで幸せなんですよね きつと
ええ しかし気持ち良くなる注射なんか打つて 本当に妻子に送金できると思つてゐるんですよかね — 本当に世間知らずもいいとこですよ ここを出たら私 日雇い橋でスナメリさん捕まえて意見してやりますよ
止しなさいよナガスさん あなたがおせっかいする事なんか無いですよ
別におせっかいだなんてそんな — 私あの人見ると腹が立つてくるんですよ 能天気で

お人好しで世間知らずで何やったってグズで ——

ゴンドウ その言葉 そっくりそのままあなたの事ですょ ナガスさん

ナガス 何を云ってるんですゴンドウさん 私がなんで ——

ゴンドウ そうじゃないですか そうでなければどうしてこんなところ入る羽目なるんです

ナガス だったら ゴンドウさんだって同類です 同じ穴のムジナですよ

ゴンドウ ええ そうかも知れませんが私はスナメリさんに意見などしませんし ナガスさんもしはいけないんです

ナガス かしですな ——

ゴンドウ 我々は誰だって自分の事だけで精いっぱいなんです！

ナガス 何も怒鳴る事無いじゃありませんか ゴンドウさんがなにを云おうと 私もう決めたんです
スナメリさんに意見してやるって事をです 別に友達だからとか云うわけじゃなくて私

ゴンドウ、窓の下に立って、窓から区切られた外の世界を見る。

ゴンドウ 私 冗談が云いたかったんです 一文無のカラッケツのグータラの腹を空かせたロクデナシが

思う存分好きな物を三日間も食べ続けて もうこれ以上は何も要らないと云うぐらいの贅沢三
味をして高楊枝でお縄を頂いたんだって —— 只れだけなんです そう云って見たかったん

です —— ナガスさん

ナガス はい 何です？ ——

ゴンドウ 私があれだけビクビクドキドキしながら —— 顔から火が出るような思いをして 砂を噛む
ようにして 食べ続けた三日間の代金 —— 幾らだったと思います？ だったの一万六千円で

す たった一万六千円の為に私 あの監獄のようなファミリーレストランの中に三日間も閉じ込められていたんです

ナガス
友達 は—— ついに電話に出なかったんですね

ゴンドウ
—— ナガスさん ほらこの窓の向う ここを出れば私達はまたあの窓の向うに行く訳ですが私には何だか あの窓の鉄格子が外の世界を封じ込めている様に見えるしまつんですよ

暗転

すぐに明転。

ゴンドウが、便器に腰掛けている。

ナガスの姿は、もう無い。

ゴンドウ
看守さん —— 看守さん —— チリ紙が切れましたよ 私の分もう無くなってしまいました

たよ —— ねえ看守さん 居ないんですか？ 私 何時になったらここを出られるんです？
もうなんだか何十年もここに居るような気がするんですけどね —— だいたいおかしいじゃありませんか 子供を拉致したスナメリさんや お弁当ドロボウの常習犯のナガスさんがどうして私よりも先にここから出られるんです？ 私 只の無銭飲食なんですよ ファミリーレストランに三日居続けたとは云え 私がそんな事をしたのは後にも先にも一回っつきり何ですよ 二本の法律はどうなっているんです？ —— いや 違いました 思い出しました 確かここに —— (と自分の道具入れを探る) ありました カリントウです ナガスさんが懲罰房に入れられた時に盗んだやつです 実はスナメリさんは一本しか盗ってなかったんです もっ

一本は私が盗りました 後で食べようと思って忘れてました（便器に座り直して）頂きます
そうです 私の罪は無銭飲食とカリントウを盗んだ事です 思い返せば他にも 数限りない小
さな嘘や盗みを繰り返していたようにも思います このカリントウ相当シツケていますね も
うどれぐらい経っているんでしょう？ 馳走様でした —— しかしあれですそれくらい的事
でこんなにも閉じ込められると云うのはやはり理不尽です ねえ 看守さん聞いてます？ 居な
いんなら居ないって云ってくれないと困るじゃないですか —— 看守さん在ってこそその刑務
所なんですよ —— 看守さんが居ないんじゃ只の —— 只の —— 何でしょう？
まあいいです —— それよりも看守さん チリ紙が切れてるんですよ いいんですか？ この
ままだと私 お尻拭きませんよ いいんですね この状態で流してしまっても？ 私どちらかと
云うと そついうのは平気な性質たちなんです 本当にこのまま流しちゃいますよ グイ

ゴンドウが、トイレの紐を引っ張ると、その紐が力無くスルスルと伸びて地面に着く。

ゴンドウ
あれ —— ？

ゴンドウ、もう一度引っ張る。
するとまた、紐は引っ張った分だけ天井から降りてくる。

ゴンドウ
看守さん 変ですよ トイレのヒモが伸びましたよ ——

返事はない。

仕方なく、ゴンドウは恐る恐る紐を手繰ってゆく。紐は幾らでも天井から降りてくる。ゴンドウ夢中になって紐を引っ張る。その仕草が段々と、蜘蛛の糸を登るカンダタのように見える。

必死に天に這い登る様に紐を手繰るゴンドウ。

やがて紐が尽き、天井からその先端がポトンと落ちた。

間のぬけた音楽が流れる。

ボンヤリと、床の紐を眺めているゴンドウに、背後からウェ이터が声を掛けた。

ウェ이터

ンドウ

ウェ이터

ゴンドウ

ウェ이터

ゴンドウ

お客様 今 お眠りになられてませんでした？

え——いえ——

当店では そついった事は禁じられておりますので よろしく願いたします

はい

どうぞお席へ

はい——

ゴンドウ、便器に腰掛ける。

ウェ이터、トイレの紐を片づける。

ゴンドウ

ウェ이터

あの——

(片づけながら) 何でしょう？

ゴンドウ ここは何処なんでしょう？

ウェイター は？——お客様　やはりお眠りになられてましたね？

ゴンドウ いえ　そんな事は——

ゴンドウ、何かを耐えるように様に便器に座っている。
もう一人のウェイターが現れる。

ウェイター2 おはよう御座居ます

ウェイター1 あ　おはよう御座居ます

ウェイター2 済みません　遅刻しちゃいまして——　実は家でテレビのニュースを観ていたんですが
たいへんですよ　世界中で火山が爆発してるんです　大地震も頻発しています　世界中の
株が大暴落です　世界中の至る場所で大勢の人が虐殺されています——　こんな所で
のんびりウェイターなんかやっててもいいんじゃないか？

ウェイター1 知りませんよ　そんな事——　馬鹿な事云ってないで仕事しなさい仕事

ウェイター2 そうですか——　そうですね　私只のウェイターなんだし——（ゴンドウに気付

いて）わ　あいつまだ居るんですか　もう三日目ですよ

ウェイター1 もう三時間も何も頼まずにああやってボンヤリ座ってるんですよ——　君注文取って

来てください（去る）

ウェイター2 判りました（ゴンドウに歩み寄る）お客様　何かご注文は御座居ませんか？——　お

客様——　お眠りになってるんですか？

ゴンドウ あ　いえ——　あの——　待ってるんです私——

ウエイター2 お連れ様がいらつしやるんですか？

ゴンドウ ええ——あの——家族がね——妻と子供が来るはずなんです ニニニニニ

て 坐つて待つてゐるからつて云つてゐるんです——もう一度電話してみます

ウエイター2 何かご注文はありませんか？

ゴンドウ それじゃあ ええと——サンドイッチとオレンジジュース お願いします

ウエイター2 サンドイッチとオレンジジュースですね かしこまりました

ウエイター2 も去る。

ゴンドウ、電話機の所へゆく。

受話器を取り、十円玉を入れる。

意を決してダイヤルを廻す

ゴンドウ——もしもし——もしも——カジオカさんのお宅ですか？私ゴンドウです ええ

居ますかあいつ？ ちよつと用事があるんです 話したい事があるんです あいつに——

ええ そうなんです 大事な話です え？——居ない？——そんなはずないでしょう

まだ出勤には間があるし それに今 声が聞こえましたよ あいつの声が奥さん——もし

もし奥さん——

電話切れる。

ゴンドウ、それでも受話器を握りしめたまま立ち尽くす。

ゴンドウ

—— カジオカ 私氣が付いたんですよ それをお前に云おうと思ったんです —— バ
ユウムカーの仕事辞めてから お前には色々と迷惑を掛けたけれど たった今氣が付いたんで
す —— 本当はどんな仕事だって構わないって事にです 誰かが居ればです 私を待つ居て
くれる誰かの為ならばどんな仕事だって厭わないという事にです 世界がどんな風になろうと
抱き合つて眠れる人の為に私は —— その事がお前に云居たくて 電話したんです ——
カジオカ 私 今 死にそうに眠いです

終わり